

令和4年度 ISO/IEC国際会議への専門家派遣に係わる補助事業報告

会議名	開催地	開催日	参加国・機関及び人数	出席者(報告者)	概要
SC77B/MT12 maintenance team 12 working meeting	イタリア、トリノ	2022年 9月 12日～ 9日 16日	フランス(メーカー、試験所)、ドイツ(メーカー、大学)、スイス(メーカー)、イタリア(試験所、大学)、アメリカ(メーカー)、日本(試験所、メーカー) 計14名	ヘデリッヒ ゲオルグ	<p>静電気放電試験の基本規格IEC 61000-4-2の第3版改正CD文書(77B/841/CD)審議。 放電電流波形規定において、試験再現性に大きな影響を与えるリングングを抑制すべく、波形規定を変更した今回のCD文書について、試験再現性が向上する明確な理由、実験データなどの根拠がない状態で実施された。日本、韓国、ドイツなどから懸念のコメントが提出されている。今回日本は、①30年以上維持した規定を変更するためには、相当の理由を示す必要があること。②第2版で示した「理想波形」は、実際の帯電人体から発生する波形に近く妥当性があること。③CD案の規定は、帯電人体の模擬波形から乖離している。などを主張し、現行第2版の規定を維持することを決定した。30ns時の波形規定は、リングング抑制目的で今後の審議を残すこととした。この決定により、歴史的にも技術的にも間違った改正を避けることができた。また試験設備など無駄な経済的負担を負う必要がなくなった。また参考附属書に理想波形に関する定義文書を追加した。これら審議結果をまとめ、次回は第2回目のCD文書を回付する。</p>
第20回ISO/TC261総会 ISO/TC261-ASTM F42 合同国際会議 WG3-JG77(AM砂型標準試験)	ドイツ国 アウクスブルク市	2022年9月19日～23日	ABNT(ブラジル),AFNOR(フランス),ANSI(アメリカ),BPS(フィリピン),BSI(イギリス),DIN(ドイツ),IPQ(ポルトガル),JISC(日本),KATS(韓国),NBN(ベルギー),NSAI(アイルランド),SAC(中国),SFS(フィンランド),SCC(カナダ),SSC(シンガポール),SIS(スウェーデン),UNE(スペイン) 参加国名17ヶ国 計74名(総会事前登録者数)	西田 元紀	<p>本会議は、TC261付加製造(AM: Additive Manufacturing)に関する国際標準化に向けISOとASTMが合同で年に2回開催している。直近は、Web開催となっていたが3年ぶりにFace toFaceでの開催となった。TRAFAMが日本国メンバーの団長として参加した。尚、初日は、ASTM WorkshopがFraunhofer IGCVで開催され、その翌日からMesse AugsburgでISO/TC261-ASTM合同の会議が行われた。日本が提案しているWG3-JG77砂型標準試験の規格ISO/TC261-ASTM-52919についてWG会合で進捗と今後の予定など報告し、CDステージへの進むことを最終日の全体会議で承認を得た。今後、2024年に規格発行を目指す。各WG、JGに参加し規格の進捗など確認した。AMIに関する標準化の対象は、拡大しつつある。その中でAMでの製造時に重要な品質保証に係わる規格ISO/TC261/52920が承認され、規格発行へ進むこととなった。この規格作成には、日本からの意見が反映され、質が良くなったとのコメントをJGリーダーからいただいた。今回の参加国では、韓国から10名以上の参加があり、付加製造の標準化推進を含めた力の入れようが伺える。</p>
ISO/TC261-ASTM F42 合同国際会議	ドイツ国 アウクスブルク市	2022年 9月 19日～23日	ABNT(ブラジル),AFNOR(フランス),ANSI(アメリカ),BPS(フィリピン),BSI(イギリス),DIN(ドイツ),IPQ(ポルトガル),JISC(日本),KATS(韓国),NBN(ベルギー),NSAI(アイルランド),SAC(中国),SFS(フィンランド),SCC(カナダ),SSC(シンガポール),SIS(スウェーデン),UNE(スペイン) 計74名(総会事前登録者数)	久木 琢	<p>総会における主な決議・採択事項は次の通りである。 ISO/ASTM TS PWI 52949(電子ビーム粉末床溶融結合装置の適格性評価(IQ/OQ/PQ))の予備作業登録を採択した。 ISO/ASTM PWI 52956(レーザー金属粉末床溶融結合システムの要件)の予備作業登録を採択した。 ISO/ASTM PWI 52957(セラミックを用いたパーツ設計)の予備作業登録を採択した。</p>
IEC/TC 86/SC 86C/WG 2	サンフランシスコ	10/30→10/31	日本、USA、ドイツ、イタリア、韓国、スイス、中国 計14名	高橋 正雄	<p>・IEC 61757-7-3:光電圧センサのPL(プロジェクトリーダー)として参加。IEC 61757-7-3はNPが承認されたことが報告され、NPコメントに対して議論。日本対応案が全面的に認められCD登録を決議。 その他、 ・IEC 61757-6-1Ed1:FBG変位センサはNPが承認されたことが報告され、NPコメントに対して議論。日本からのコメントは全面的に認められ、PLの韓国がCDを作成、登録することを決議。 ・IEC 61757-1-2Ed1:ブリルアン歪みセンサはCDVコメントに対し議論。日本コメント14件に対し、1件合意せず。技術的議論を継続するためにCDV2を作成することを決議 ・WG2の活動を紹介するための資料の作成について議論。特にインフラ強化に対する光センサの貢献が重要であるとの認識のもと、e-Tech出版物を準備することとなった。 SC86C Plenary (11月2日開催)</p>
・SC 86C(光ファイバシステム・アクティブデバイス)/ プレナリー ・SC 86C(光ファイバシステム・アクティブデバイス)/ WG 3(光増幅器およびダイナミックモジュール)	サンフランシスコ	10/31、11/2→10/28、11/2	<p>✓SC86C Plenary (11月2日開催) 参加国 ベルギー、カナダ、中国、フランス、ドイツ、イタリア、日本、オランダ、米国、ポーランド、韓国、計27名(登録者含) ✓SC86C WG2 (10月31日開催) 参加国 ドイツ、イタリア、米国、日本、韓国、スイス、中国、計16名 ✓SC86C WG3 (10月28日開催) 参加国 ドイツ、イタリア、米国、日本、韓国、中国、計16名 ✓SC86C WG4 (10月29日開催) 参加国 イタリア、米国、日本、英国、カナダ、フランス、韓国、中国 計19名</p>	山田 誠	<p>・SC86C WG1~WG4で現在作業中文書に関しての報告があり、日本提案文書の予定通りの進行状況を確認。 ✓SC86C WG2 関連(10月31日開催) ・IEC 61757-7-3 Ed.1.0: NPコメント審議、CD回覧・決定。 ✓SC86C WG3 (10月28日開催) ・IEC 61290-10-1 Ed.2.0: メンテナンス審議、5年継続が決定。 ・IEC TR 61292-4 Ed.4.0: DTRコメント審議、文書発行・決定。 ・IEC TR 61292-6 Ed.2.0: DTRコメント審議、文書発行・決定。 ・IEC TR 61292-12 Ed.1.0:文書発行済み(2022/9)を確認。 ・IEC 61291-2 Ed.5.0: CDVコメント審議、FDIS回覧・決定。 ・IEC 62343 Ed.3.0: CDVコメント無し、文書発行・決定。 ・IEC TR 62343-6-12 Ed.1.0: DTRコメント審議、文書発行・決定。 ✓SC86C WG4 関連(10月29日開催) ・IEC 62007-2 Ed.2.0: メンテナンス審議、日本提案で改訂決定。 ・IEC 62148-17 Ed.1.0: CD回覧コメント審議、CDV回覧・決定。 ・IEC 62149-3 Ed.4.0: CD回覧コメント審議、CDV回覧・決定。 ・IEC 62149-4 Ed.2.0: CDV回覧コメント審議、FIDS回覧・決定。 ①WG2:光増幅器に関する文書作成の審議、新規案件として議論し、SC86C WG2と持ち上げて文書作成を目指すことが決定</p>
TC 281(ファインバブル技術)TC会議及びWG 1、WG 2、WG 3会議	英国、ロンドン	令和4年10月31日～11日2日	英国(BSI)2、韓国(KATS)3、日本(JISC)6 計11名 その他、オンラインで、英国、中国、日本、シンガポール、インドネシア、オーストラリア、ロシア、ベトナムから45名参加	島岡 治夫	<p>①WG2:ウルトラファインバブル(UFB)の特性評価 既存のUFB測定規格では対応できていない部分を含め包括的なUFB測定規格を提案した。とくに、コンタミ粒子の影響補正が重要なポイントとなる。報告者が、事前のオンライン会議で、規格案の骨子を説明し、ロンドン会議の全体会議にて、PWIとして登録することが承認された。 ②WG3:シャワーヘッドのサイズおよび濃度インデックスの評価 今回は、CD投票時に出たコメントへの対応について報告者が説明した。一部英文表現の修正、7章報告事項の2項目の説明不足を補足、写真の不鮮明さについては新規撮影版を提示し、それぞれ了承された。ドラフト修正後、DIS投票に進むことが承認された。</p>
TC 281(ファインバブル技術)TC会議及びWG 1、WG 2、WG 3会議	英国、ロンドン	令和4年10月31日～11日2日	英国(BSI)2、韓国(KATS)3、日本(JISC)6 計11名 その他、オンラインで、英国、中国、日本、シンガポール、インドネシア、オーストラリア、ロシア、ベトナムから47名参加、総計58名	北川 順久	<p>経済産業省が委託する「省エネルギー等に関する国際標準の獲得・普及促進事業(省エネルギー等国際標準開発(国際標準分野))」の一環として、「水の効果的利用等を目指したファインバブル(FB)技術応用に関する国際標準化・普及基盤構築」をテーマとして、令和4年10月31日～11月2日の間、第16回ISO/TC 281及びWG会議(ロンドン現地開催及びオンラインのハイブリッド会議)に参加した。2020年以降、コロナ禍の影響でISO/TC 281のオンライン会議が2年間、5回続いたが、今回は、2年振りの現地開催となった。但し、まだ、8割の参加者はオンラインでの参加で、ハイブリッドの形態で行われた。 当該報告者は、ISO/TC 281の事務局として、TC及びWGプロジェクトの管理サポートを行うとともに、個別のプロジェクトではISO/CD 7429-1(ノズルの性能評価)に関するプレゼンと審議に対応(当該プロジェクトのPLIによる委任)するために参加し、会議及び各プロジェクトの進捗に努めた。今回の会議では、全体の審議件数が18件(日本提案は6割に当たる11件)と過去最高、審議結果はDIS段階への進捗が半分の9件(日本提案は9割に当たる8件)とこれも過去最高となり、大きな成果を収めた。</p>

IEC/TC108プレナリー、IEC/TC108/HBSDT会議、IEC/TC108/PT63315会議	サンフランシスコ	2022/10/31～11/4	12か国(カナダ、ドイツ、インド、アイルランド、日本、韓国、メキシコ、オランダ、ノルウェー、フィリピン、南アフリカ、アメリカ) Plenary会議 38名(日本から5名)PT61335会議18名(日本から5名)	柴田 恵	IEC/TC108/PT63315会議の審議、決定事項 1)USBを含む通信インターフェースを介して電源を供給する機器(PSE)と供給を受ける機器(PD)の安全を規定する規格案(CD)に対する各国からのコメントの審議を行った。 2)日本からの主要コメント2件(単一故障条件下でのPSEの出力電圧測定法に関するもの及び“Wet environment”に関するもの)を含む計5件のコメントは基本的に全て採用された 3)今回の審議結果に反映した2ND CDを出す。 4)次回PT会議は、2ND CD発行後に予定する IEC/TC108/Plenary会議の主要な決定事項 1)旧TC(TC92/TC74)で作成した規格のメンテナンス作業を行う2つのWG(MT1/MT2)の廃止(日本は賛成した。) 2)IEC60065及びIEC60950シリーズ規格の廃止 日本を含む6か国が、自国でまだ使用している等の理由で反対したが廃止が決定。但し、日本から突然の廃止は産業界に混乱をもたらすと強く主張し、廃止時期は2023年12月末となった。 3)IEC62102及びIEC62911の新しい版の作成作業を開始する。 4)次回会議:2024年秋 今後の対応 PT63315の規格は電安法技術規準の解釈別表第十二への採用される可能性も視野に、引き続きIS発行まで日本意見の反映に努める。
IEC/TC108プレナリー、IEC/TC108/HBSDT会議、IEC/TC108/PT63315会議	サンフランシスコ	2022/10/31～11/4	12か国(カナダ、ドイツ、インド、アイルランド、日本、韓国、メキシコ、オランダ、ノルウェー、フィリピン、南アフリカ、アメリカ)計37名(日本から5名)	東海林 衛	IEC/TC108/WG HBSDT会議の審議、決定事項 1)IEC 62368-1 [AV,情報及び通信技術機器 第1部 安全要求]について ①第4版に対する、主にエディトリアルな修正提案、および第5版に対する新規提案についての審議を行った。 ②日本からの提案2件 ・30`400kHzの沿面距離を規定する表18と、参照元のIEC 60664-1の表2との間に相違があるとの指摘を行った。趣旨が採用され、2つの表を整合させることになった。 ・個人用音楽プレーヤ(PMP)の音圧測定法について、PMPとリスニングデバイスをBluetooth(BT)で接続する場合に、BTの規格(AVRCP)のバージョンの違いに起因する本質的な課題を指摘し、新たな測定法に関する提案を行った。本提案については、Adhocを設けて審議することになった。 2)IEC TR 62368-2[IEC 62368-1の解説]について ①108/77/DC文書に対する提案についての審議を行った。 ②日本からの提案1件 安定性試験の目的についての説明、及び下向きに力を加える場合の例の追加。及び、水平方向の力を加える試験に関し、印加する力を規定した根拠がCRTテレビの重量に基づいたものになっているが、これをフラットTVの重量に置き換えた説明を追加するとの提案を行った。本提案については、第5版で採用される見込み。 3)次回会議は2023年春に実施される。主にIEC 62368-1第5版に向けて、引き続き日本提案の反映に努める。
ISO/IEC JTC1/SC17/WG 4 ISO/IEC JTC1/SC17/WG 11	ドイツ、ベルリン	2022/10/17～26	WG4対面参加:ドイツ、DIN、オーストリア、ASI、アメリカ、ANSI、カナダ、SCC、ケニア、KEBS、日本、JISC 計17名 遠隔参加:ドイツ、DIN、フランス、AFNOR、オランダ、NEN、スウェーデン、SIS、アメリカ、ANSI、中国、SAC、韓国、KATS、日本、JISC 計33名 WG11対面参加:シンガポール、SSC、スペイン、AENOR、ノルウェー、SN、ケニア、KEBS、日本、JISC 計15名 遠隔参加:シンガポール、SSC、ドイツ、DIN、オーストリア、ASI、中国、SAC、韓国、KATS、日本、JISC 計8名	酒井 高彦	WG4における主な討議 ■ISO/IEC 23465シリーズ セキュリティ機器としてのICカードを操作するAPIの規定 ICカード利用のアプリケーション開発を容易にする事を期待 パート1、2は発行、パート3はDTS投票へ進める ■ISO/IEC 7816シリーズ ICカードの基本仕様の規定であり、既存機能拡張・新機能追加により市場要求に応える パート4 Amd1はDAM投票へ進める パート8 Amd1は投票期間中のため討議無し ■ISO/IEC 23220シリーズ 携帯機器利用の個人識別を実現するシステム構成要素の規定 個人識別機能をICカード利用から携帯機器利用へと拡張 パート1はFDIS投票へ進み、残りのパートはWD改定・意見募集・意見解決作業を継続 WG11における主な討議 ■ISO/IEC 24787シリーズ 内部で生体認証処理を実施するICカード規定の改定 このICカードの市場への普及が見込まれる パート1、2共に意見解決と規定案の修正作業を継続 ■ISO/IEC 17839-2 生体情報取得機構組込ICカードの物理規定の改定 2023年初頭にシンガポールで相互運用性試験実施を計画 市場関係者への訴求が見込まれる 改定版WDIにて意見募集を実施する予定
IEC TC100(Audio, video and multimedia systems and equipment) IEC TC100TA18 (Multimedia home systems and applications for end-user networks)	サンフランシスコ	2022年10月25日～10月30日	15か国(アメリカ、イギリス、イタリア、インド、オランダ、韓国、スイス、スウェーデン、スペイン、中国、ドイツ、フィンランド、フランス、ベルギー、日本)、40人+23人(Online)	村上 和弘	●Haptics に関する日本提案のプレゼン。NP提案前段階に入る。(TA18) ●韓国より既存USB標準のガイドラインPWI提案があるが、米国の反対で次回へ。(TA18) ●自動運転における外部HMI装置のPWIの提案を決議(PL韓国)。今後確認必要。(TA17) ●AGS (戦略諮問会議)で、メタバースに関するWG設立が提案を決議。(TA1にて韓国議長で) ●AGS (戦略諮問会議)で、VR/AR/MRのアドホックの設立が提案を決議(TA1にて韓国PLにて) 上記検討は、TA18のHaptics関連標準化に関連するが、先行して対応することとする ●AGS (戦略諮問会議)での優先技術項目上位に、新たにIoTとメタバースが入り、今後の検討が進められる。 ●次回2023年5月会合は、日本の岡山にて開催の予定。(AGS/AGM,TA)
ISO/TC189(Ceramic Tile)国際会議	インドネシア、パリ	12/8～10	アメリカ、イギリス、イタリア、イスラエル、インド、インドネシア、オーストラリア、スペイン、スリランカ、日本、フィリピン、フランス、ベルギー、マレーシア、メキシコ、モロッコ 計57名	横井弘喜	TC189:WG12が設置されることとなり、Embodied Carbon of Ceramic Tile and Related Product(セラミックタイルおよび関連製品のエンボデッドカーボン)としてタイルの原料調達から製品の廃棄までのCO2排出について検討されることとなった。 WG1およびWG4: Determination of elastic modulus for substrates glaze layer(下地と釉薬層の弾性率の測定)の予備作業開始とTensile adhesion strength of multilayer tiles and tile adhesives(多層タイルとタイル用接着剤の引張接着強度試験)の予備作業開始が承認された。 WG2:ISO 13006(Ceramic Tile)の適用範囲について、パネル/スラブにタイル裏面にメッシュが裏打ちされた製品も適用できるよう提案があったほか、以前の改正で削除されたモザイクについて、再び範囲に戻すことが検討された。 WG3:アメリカおよびスペインで製造されたISOブロックを使用して同じ試験を行い、メーカー、表面状態の違いによる検証が行われ、その結果が報告された。 WG7:新規プロジェクトとして17889-1、17889-2の検証およびガイドラインを作成することが提案された WG8:“セラミックタイル表面の抗ウイルス活性の定量的測定とセラミック表面でのウイルスの生存 - 試験方法 - パート 3”と、“セラミックタイル表面の抗真菌活性の定量的測定 - 試験方法 - パート 4”の各規格案が新たに作成されることになった。 WG9:WG3より提供されたISOブロックを使用した日本の接着剤メーカーによるラウンドロビンテストの結果を報告した。 WG11:Uncoupling Membrances(非結合膜)の試験結果が報告された。

ISO/TC189(Ceramic Tile)国際会議	インドネシア、パリ	12/8～10	アメリカ、イギリス、イタリア、イスラエル、インド、インドネシア オーストラリア、スペイン、スリランカ、日本、フィリピン、 フランス、ベルギー、マレーシア、メキシコ、モロッコ 計57名	橋田 亮	<p>TC189:WG12が設置されることとなり、Embodied Carbon of Ceramic Tile and Related Product(セラミックタイルおよび関連製品のエンボデイドカーボン)としてタイルの原料調達から製品の廃棄までのCO2排出について検討されることとなった。</p> <p>WG1およびWG4:Determination of elastic modulus for substrates glaze layer(下地と釉薬層の弾性率の測定)の予備作業開始とTensile adhesion strength of multilayer tiles and tile adhesives(多層タイルとタイル用接着剤の引張接着強度試験)の予備作業開始が承認された。</p> <p>WG2:ISO 13006(Ceramic Tile)の適用範囲について、パネル/スラブにタイル裏面にメッシュが裏打ちされた製品も適用できるよう提案があったほか、以前の改正で削除されたモザイクについて、再び範囲に戻すことが検討された。</p> <p>WG3:アメリカおよびスペインで製造されたISOブロックを使用して同じ試験を行い、メーカー、表面状態の違いによる検証が行われ、その結果が報告された。</p> <p>WG7:新規プロジェクトとして17889-1、17889-2の検証およびガイドラインを作成することが提案された</p> <p>WG8:“セラミックタイル表面の抗ウイルス活性の定量的測定とセラミック表面でのウイルスの生存－試験方法－パート3”と、“セラミックタイル表面の抗真菌活性の定量的測定－試験方法－パート4”の各規格案が新たに作成されることになった。</p> <p>WG9:WG3より提供されたISOブロックを使用した日本の接着剤メーカーによるラウンドロビンテストの結果を報告した。</p> <p>WG11:Uncoupling Membrances(非結合膜)の試験結果が報告された。</p>
ISO/TC189(Ceramic Tile)国際会議	インドネシア、パリ	12/8～10	アメリカ、イギリス、イタリア、イスラエル、インド、インドネシア オーストラリア、スペイン、スリランカ、日本、フィリピン、 フランス、ベルギー、マレーシア、メキシコ、モロッコ 計57名	高橋 正男	<p>TC189:WG12が設置されることとなり、Embodied Carbon of Ceramic Tile and Related Product(セラミックタイルおよび関連製品のエンボデイドカーボン)としてタイルの原料調達から製品の廃棄までのCO2排出について検討されることとなった。</p> <p>WG1およびWG4:Determination of elastic modulus for substrates glaze layer(下地と釉薬層の弾性率の測定)の予備作業開始とTensile adhesion strength of multilayer tiles and tile adhesives(多層タイルとタイル用接着剤の引張接着強度試験)の予備作業開始が承認された。</p> <p>WG2:ISO 13006(Ceramic Tile)の適用範囲について、パネル/スラブにタイル裏面にメッシュが裏打ちされた製品も適用できるよう提案があったほか、以前の改正で削除されたモザイクについて、再び範囲に戻すことが検討された。</p> <p>WG3:アメリカおよびスペインで製造されたISOブロックを使用して同じ試験を行い、メーカー、表面状態の違いによる検証が行われ、その結果が報告された。</p> <p>WG7:新規プロジェクトとして17889-1、17889-2の検証およびガイドラインを作成することが提案された</p> <p>WG8:“セラミックタイル表面の抗ウイルス活性の定量的測定とセラミック表面でのウイルスの生存－試験方法－パート3”と、“セラミックタイル表面の抗真菌活性の定量的測定－試験方法－パート4”の各規格案が新たに作成されることになった。</p> <p>WG9:WG3より提供されたISOブロックを使用した日本の接着剤メーカーによるラウンドロビンテストの結果を報告した。</p> <p>WG11:Uncoupling Membrances(非結合膜)の試験結果が報告された。</p>